

《目 次》

はじめに	1
第1部 太平洋問題調査会に参加した人々	
第1章 横田喜三郎の戦後日本の安全保障論	片桐庸夫 3
第2章 松本重治の民間国際交流と国家間関係： 日本IPRから国際文化会館へ	高光佳絵 33
第3章 1954年第12回IPR京都会議と渋沢敬三： 日本IPRと東西財界・知識人ネットワークとの仲介者	飯森明子 51
第4章 坂西利八郎の「新外交」論：中国問題への対応を中心として	堀内暢行 73
第5章 朝河貫一と高木八尺：民主主義の定着を目指して	山内晴子 88
第6章 パブリック・ディプロマシーの観点からみた新渡戸稲造 ：太平洋問題調査会における活動を中心として	上品和馬 121
第7章 アジア太平洋地域における国際関係論の発展： ジェームズ・T・ショットウェルとその批判者を中心に	三牧聖子 151
第8章 クインシー・ライトと太平洋問題調査会	篠原初枝 163
第9章 太平洋問題調査会の京都会議と上海・杭州会議に参加したニュージーランド 女性：ベラ・ヘイに関する資料探しの経緯	山岡道男 166
第2部 太平洋問題調査会に関する研究史	
第10章 私の太平洋問題調査会研究履歴	片桐庸夫 180
第11章 私とIPR研究	飯森明子 192
第12章 IPR研究と私	山内晴子 195
おわりに	198
執筆者紹介	199
付録：IPRの主要人物一覧表	203